

2016年2月15日

星野健蔵

新潟支部「結ぶ」企画報告書

1 ねらい

- (1) 会誌編集を通して、新潟支部会員の相互理解と心の結束を図る。
- (2) 会誌配布を通して、美術愛好者と繋がりを持ち、多摩美術大学の啓発連鎖のウェーブを起こす。

2 取り組み

(1) 編集計画と実際

内 容	計 画	段 階	実 際 の 取 り 組 み
① 出稿者	・全会員へ呼びかけ (-人1ページ)		・出稿者20名
② 会誌名	・仮称「TAMABIの仲間たち」		・「TAMABI」 第3号 多摩美術大学校友会新潟支部会報
③ 体裁	・A4・フルカラーオフセット・中綴じ・24ページ		・同 左
④ 冊数	・100部		・1,000部
⑤ 経費	・150,000円・不足分は個人徴収		・同左・個人徴収なし
⑥ 配布対象者	・支部全会員と県内の高等学校、美術館、画廊、新聞社、美術愛好者等		・同左の他に、校友会全支部
⑦ スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・5月末日(原案検討)・6月末日(原稿依頼発送)・8月10日(総会で細部説明と意見交換) ・10月20日(原稿締め切り以後計画が大幅に遅れる。未到着、映像不備、資料不足等)→最終的に完成は1ヶ月半遅れとなる見込。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり順調に進む ・3月中旬製本完成、冊子配布

(2) 成果と課題

【成果】

- ・「会誌発行」という同一目標のもとに、会員相互の制作姿勢や日ごろの考え方等を交換することによって、作家同士の絆を一層深め合う事ができた。
- ・「結ぶ」企画を契機に、途絶えていた支部会報「TAMABI」を3号として冊子に継承発展させることができた。
- ・本冊子を地域社会へ発信配布することによって、多摩美術大学や校友会の存在と活動の様子並びに出稿者個々の制作主張が編集を通して広く伝達紹介することができたと考える。

【課題】

- ・県内広域、年齢差、職種多彩、閑忙感差異等々の理由から、結ぶ企画を共通理解し取り組むことは、予想以上に難しかった。しかし、幾つかのハードルを乗り越えることにより、支部会員相互の「結び付き」が深まったようである。発刊の遅れ等の失敗等を反省課題として、今後の支部活動に活かして行きたい。
- ・予算をかけずにより良い冊子を目指したが、これが精一杯であった。校友会本部からの助成金の100,000円は、本当にありがたかった。完成した会誌を有効に配布活用する事が当面の新潟支部の取り組み課題である。